

新^{しん} 緑^{みどり} ニュー ス



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



健康講座「脱腸（鼠径ヘルニア）～意外と多い脱腸、もしかすると...～」

横浜新緑総合病院 消化器センター 外科・消化器外科副部長 平山 亮一

脱腸は子どもの病気…と思われがちですが、実際には成人の方が多く、中高年に顕著な病気です。脱腸の中で一番多いのが鼠径部（太ももの付け根付近）で、米国では年間80万人が治療され、専門の外科医がいるほど一般的な病気です。日本は15万人と推定されますが、多忙のため我慢したり、「恥ずかしい病気」のイメージがあり、受診を渋る方も多くみられます。

【鼠径ヘルニアの原因】

主な原因は、加齢により内臓や組織を支えている筋膜や筋肉が衰えることにあり、誰にでも起こりうる病気といえます。患者さんは全体の80%が男性で、50～60歳代がピークです。成人の鼠径ヘルニアは、職業や日常の生活行動により注意が必要なケースがあります。たとえば、重い物を持ち上げたり運んだりする仕事や立ち仕事は鼠径ヘルニアになりやすく注意が必要です。便秘や前立腺肥大がありトイレでいきむことが多い方、よく咳をする方、肥満や妊娠中の方も、腹圧がかかりやすいので注意が必要とされています。

【鼠径ヘルニアの症状】

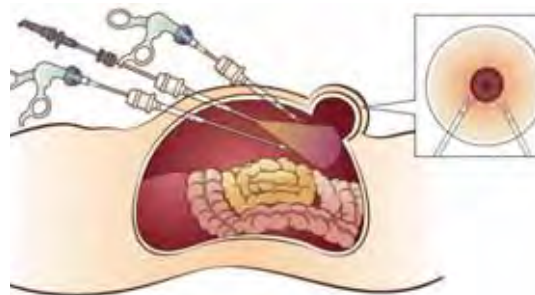
脱腸の膨らみの大きさは人それぞれで、ピンポン球や鶏卵くらいに感じることもあります。触るとやわらかく、手で押ししたり、からだを横にしたりすると、たいていは引っ込んでしまうため、不安を感じながらも放置していることが少なくありません。

さらに放置していると、手で押ししても引っ込まず、痛みも強くなり、歩くのも辛くなります。こうした状態を「嵌頓（かんとん）」と言い、飛び出した腸が原因で腸閉塞を起こしたり、腸が壊死して腹膜炎を起こすなど、生命にかかわる危険性が高くなります。そうなる前にきちんと受診し、診断されることが大切です。



【鼠径ヘルニアの治療】

鼠径ヘルニアは自然には治らず、手術が最善の治療方法です。手術自体は古来から行われています。近年は技術の進歩により身体にかかる負担も軽減され、また、手術方法もここ数年で大きく変化しました。鼠径部を5cm程切開し、お腹の前方から手術する方法（従来法）と、お腹に小さな穴を開けて、お腹の内側から腹腔鏡を用いて手術する方法があります。腹腔鏡手術の大きな利点は、傷あとが小さく痛みが少ない、ヘルニア発生部位が左右2ヶ所にあっても同時に治療できる、お腹の中（腹腔内）を観察しながら手術を行うので、症状が出ていない小さなヘルニアの見落としが少ないことです。



【横浜新緑総合病院 消化器センター】

腹腔鏡下ヘルニア手術専門医は全国で約110名、神奈川県内では10名、そのうち1名が当院の常勤スタッフとして手術を担当いたします。

脱腸でお悩みの方は、是非、当院消化器センターにご相談ください。

さらに詳しい説明はWEB版みんなの健康講座をご覧ください。

WEB版 みんなの健康講座
脱腸（鼠径ヘルニア）
～意外と多い脱腸、もしかすると～





10月入職 常勤医師のご紹介

※ ご挨拶と写真は11月号に掲載します。

(内科) 副部長 小澤 哲二 (おざわ てつじ)

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本アレルギー学会専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本呼吸器学会専門医
- 日本医師会認定産業医

発熱がある方の受診について

発熱があり受診を希望される場合、一般外来とは別の診療予約が必要です。必ず事前に電話連絡をお願いいたします。 **横浜新緑総合病院 045-984-2400 (代表)**



「2019年度 新緑のQI」を発行しました

QI (Quality Indicator : クオリティ・インディケ이터) とは、医療の質を評価する指標のことです。医療現場のデータを適切な指標で解析することで、医療の質改善のためのツールとして用います。



「新緑のQI」は、当院のQI指標とその意味を皆様にご覧いただくために作成しており、質改善のための活動について担当者のコメントも掲載しています。当院ホームページおよび外来フロアの情報コーナーにてご覧いただけます。

2019年度「新緑のQI」冊子 →



日本赤十字社 献血協力

8月27日、神奈川県赤十字血液センターによる献血が実施されました。当院では定期的に献血を行っており、今回は45名の職員が勤務の合間に交代で献血バスを訪れ、協力することができました。

新型コロナウイルスの影響でイベント等への献血バス配車の機会が減少していることもあり、献血者が減少し、血液製剤の在庫不足が危惧されています。当院でも血液製剤を必要とする患者さまが治療を受けており、多くの職員が献血の必要性を感じています。

当院は患者さまの支援の一つとして、今後も献血活動を継続してまいります。

献血協賛：横浜みどりライオンズクラブ

厚生労働省 献血推進キャラクター「けんけつちゃん」→



2020年 第3回 WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

「骨粗鬆症と腰椎圧迫骨折」 講師 横浜新緑総合病院 整形外科医長 安原 和之

昨今、急速に高齢化が進んでおり、もうすぐ人生100年時代となることが予想されますが、高齢化が進むことで増加する脊椎の病気が腰椎圧迫骨折です。腰椎圧迫骨折は骨粗鬆症が原因で発症しますが、骨粗鬆症は生命予後と関連しており、健康な体で長生きしていくためには、骨折を予防して健康維持することが重要です。



今回の講座では骨粗鬆症の予防や治療方法について解説いたします。

お問合せ：地域医療連携室 045-984-6216 (直) 045-984-2400 (代)

スマートフォンでもご視聴いただけます



WEB版 みんなの健康講座

知ろう！学ぼう！考えよう！

乳がんのこと ~検診と診断編~

講師：外科・乳腺外科部長 大地哲也



11月配信予定 WEB版みんなの健康講座

糖尿病と運動療法 (仮)

リハビリテーション部主任 理学療法士 邑上洋一

